

箱根駅伝出場がその後のキャリアに与える影響

ーアンケート調査結果の比較よりー

スポーツクラブマネジメントコース

5020A315-5 中山 賢太

研究指導教員：間野 義之 教授

1. 背景

毎年1月2、3日に開催される東京箱根間往復大学駅伝競走（以下箱根駅伝と略す）は1920年に関東の地方大会として始まったが、第63回大会から日本テレビによる全国への生中継を開始したことにより年々注目度が高まり、近年では平均視聴率30%を誇る正月の一大イベントへと成長した。メディア露出度が高いことから、箱根駅伝に出場した大学の広告宣伝効果や経済効果を検証するテーマの研究が多く取り上げられているが、出場した選手に焦点を当てた研究はほとんど行われていない。

そこで、本研究では、箱根駅伝出場による影響について、大学卒業後のキャリアの検証を行い、その際に生じる影響とキャリア形成に関する課題の提示を目指すこととする。

2. 先行研究

清水ほか(2016)はアスリートに求められる心理尺度「ライフスキル尺度」を使用して、大学生トップアスリートの卒業後における雇用状態との関連性を検証し、「大学卒業後の雇用状態及び最終希望職の獲得と主要ライフスキル（目標設定、最善の努力、考える力）は正に関連する」ことを示唆した。

金森(2017)は「大学時代の正課外活動への参加は社会人として必要な多くの力を培い重要な機会であること。正課外活動と勉強との両立を行っていた者、及び社会人になってからスポーツ活動をしている者は、それぞれ社会人生活の充実につながる傾向にあること」などを具体的に明らかにしてきた。

Lechner(2009)は「スポーツ活動が健康や

主観的幸福感と同様に 所得や給与の面で労働市場に対して正の効果をもたらす」ことを明らかにしている。

箱根駅伝に出場した選手に対する研究は、コンディショニングやトレーニングなどのテーマがいくつか存在するが、キャリアをテーマにした研究は見当たらなかった。

3. 研究目的

本研究は箱根駅伝という学生スポーツでありながらメディア露出度、注目度が高い環境下において、箱根駅伝常連校の陸上部長距離ブロックに所属していた選手を対象に「箱根駅伝出場がその後の労働市場の成果においてどのような影響を与えたか」を明らかにすることを目的とし、運動への参加を箱根駅伝出置き換えて、「箱根駅伝プレミアム」を検証する。

4. 研究方法

箱根駅伝が日本の学生スポーツ界における一大イベントのきっかけとなった日本テレビによる生中継が始まった1987年第63回の大会から現在に至るまでの期間を設定した。また箱根駅伝常連校であるA大学をモデルケースとして長距離ブロックに所属していた卒業生322名を対象にオンラインにて質問票を作成し調査を行った。2020年11月下旬から12月の中旬まで回答を受け付け、有効回答数102件が得られた。

5. 結果

表 1 箱根駅伝出場(1)と未出場(2)の t 検定

	モデル 1 (n=41)		モデル 2 (n=61)		P(T<=t) 両側
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
キャリアコミットメント	5.122	0.255	4.852	0.215	0.424
組織コミットメント	4.317	0.311	3.902	0.259	0.309
職務コミットメント	5.366	0.251	5.016	0.211	0.292
能力認知	5.341	0.190	5.033	0.191	0.274
役割期待	5.463	0.171	5.098	0.171	0.150
収入	4.585	0.310	4.180	0.234	0.292
環境	5.683	0.233	5.475	0.166	0.458
豊かさ、快適さ	5.512	0.198	5.295	0.195	0.452
キャリア形成への影響	5.902	0.220	5.557	0.180	0.228
就職への影響	6.049	0.218	5.590	0.185	0.114
スキルへの影響	5.488	0.245	5.066	0.245	0.244
職場での評価	5.659	0.285	5.426	0.240	0.537
スキルへの評価	5.293	0.267	4.492	0.259	0.040
自己成長	5.659	0.211	5.328	0.199	0.271
モチベーション	5.585	0.197	5.148	0.215	0.159
目標設定	5.366	0.234	4.885	0.224	0.153
箱根駅伝の話題性	5.976	0.208	5.115	0.244	0.014
誇り	6.488	0.136	5.721	0.204	0.006

表 2 出場回数が多い (3) と少ない (4) の t 検定

	モデル 3 (n=21)		モデル 4 (n=81)		P(T<=t) 両側
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
キャリアコミットメント	5.476	0.306	4.827	0.189	0.110
組織コミットメント	4.286	0.432	4.012	0.225	0.581
職務コミットメント	5.571	0.356	5.016	0.181	0.193
能力認知	5.571	0.272	5.049	0.157	0.126
役割期待	5.524	0.245	5.173	0.142	0.255
収入	4.857	0.410	4.210	0.210	0.164
環境	5.905	0.300	5.469	0.152	0.197
豊かさ、快適さ	5.810	0.214	5.272	0.167	0.123
キャリアへの影響	6.333	0.211	5.557	0.172	0.020
就職への影響	6.333	0.199	5.630	0.168	0.045
スキルへの影響	5.667	0.326	5.123	0.205	0.216
職場での評価	5.571	0.445	5.506	0.201	0.886
スキルへの評価	5.571	0.362	4.617	0.218	0.043
自己成長	5.857	0.252	5.328	0.199	0.170
モチベーション	5.762	0.228	5.358	0.172	0.143
目標設定	5.619	0.305	4.938	0.189	0.095
箱根駅伝の話題性	6.286	0.209	5.247	0.205	0.014
誇り	6.762	0.118	5.840	0.165	0.006

表 3 競技継続 (5) と未継続 (6) の t 検定

6. 考察

本研究では、箱根駅伝出場がキャリアに与える影響について、オンラインのアンケート調査の結果から、様々なグループに分けて分析を行った。箱根駅伝出場の有無だけでは、ブランド影響力しか有意差が確認できなかったが、出場回数で分けた際は、キャリアへの影響や、就職への助けといった項目において有意差が確認できたことから、箱根駅伝の出場回数が多いほど実業団へ進んでおり、その関連性が示唆さ

れた。また実業団へ進んだ選手は進まなかった選手と比べて、労働市場における成果において、良い値をしており、有意差も確認できたところから、労働市場における成果において正の影響を与えていると考えられる。

7. 結論

本研究の分析結果から箱根駅伝出場回数が増えるほど、キャリア形成上に肯定的な効果が明らかにするとともに、就職に対する困難を軽減することがわかった。その背景には陸上競技における企業チームである実業団が大きく関わっていることも判明した。箱根駅伝に出場した選手の多くが、大学卒業後に実業団で競技を続けており、箱根駅伝はキャリア形成に大きな影響を与えているということが明らかになった。また出場した選手の箱根駅伝の評価は高く、キャリア形成の中でも重要な位置づけであることが確認された。また実業団へ進むことが労働市場における成果において正の影響を及ぼすことも明らかになった。箱根駅伝に出場し実業団へ進んだ選手と、陸上を引退し就職した選手の間には明確な労働市場における成果の差が確認された。

本研究が箱根駅伝ランナーのキャリアの一助となり、今後さらなる社会での活躍を期待につながれば幸いである。

8. 参考文献

清水聖志人,他 (2016) 大学生トップアスリートの卒業後における雇用状態とライフスキルの関連—卒業後 4 年間に渡る縦断調査の結果より

金森史枝 (2017) , : 大学時代の体育系正課外活動への参加が 社会人生活に及ぼす影響 : 体育会運動部と体育系サークルとの所属の違いに着目して. 日本体育学会体育社会学 専門領域発表論文集, 25 : 129–134.

Lechner, M. (2009) Long-run labour market and health effects of individual sports activities. Journal of Health Economics, 28(4), 839–85